

ツリーワークでは、特殊伐採や剪定作業中に存在する高いリスクを最小限に抑えるように設計された特別な技術が求められます。製品と技術の選択は、クライミング、剪定、リギングの特定の作業ニーズと、高所で安全に作業するために必要な安全条件を組み合わせるものでなければなりません。

## 図11 - 樹木へのロープのセッティング

最初に、スローラインが取り付けられた小さなおもり(スローバッグ)を、選択したアンカーポイントの方向に投げ、ラインをアンカー(枝股)に掛けます。ラインが取り付けられたウェイトは手で投げたり、特殊なスリングショットを使用して発射したりできます。次に、ツリー用ロープを特別な結び目でスローラインに接続し、アンカーポイントまで引っ張って取り付けます。

## 図12 - 樹木にアクセスして移動するためのテクニック

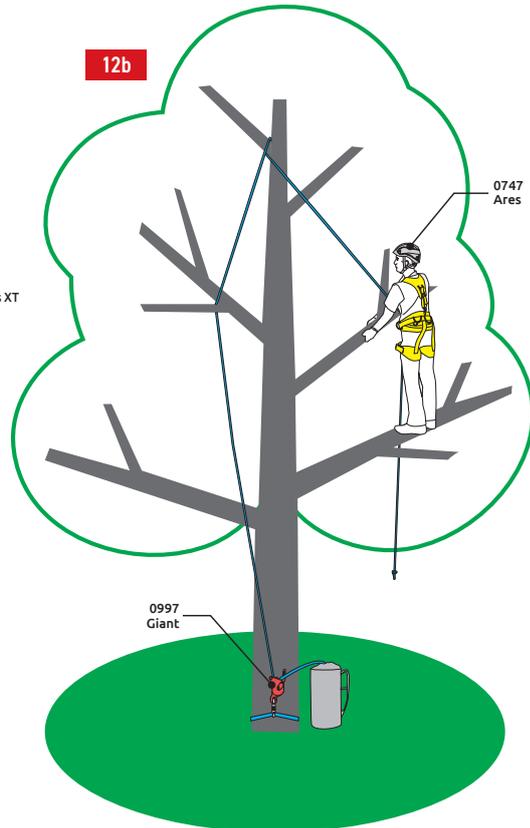
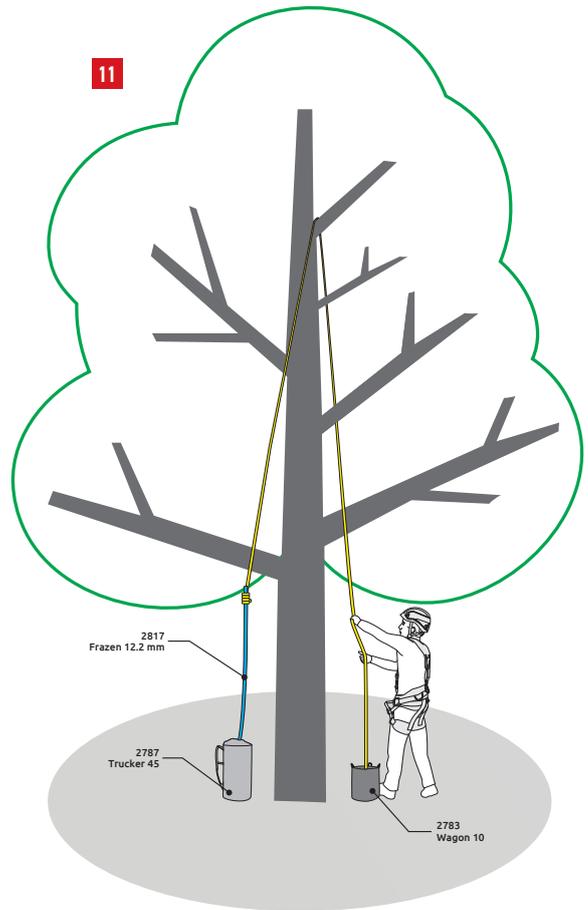
まず、地上から木に登るためのアクセスロープを設置します。国によっては、2本目のバックアップロープの使用が必要な場合があります。そして、安全に樹上を移動するために、2本目のロープをできるだけ高い位置に固定します。ダブルリングのセーバーを使用すると、専用のアンカーポイントが作成され、摩擦が軽減され、ロープと樹木が互いに損傷するのを防ぎます。樹木にアクセスして移動するための最も一般的な2つのテクニックは次のとおりです。

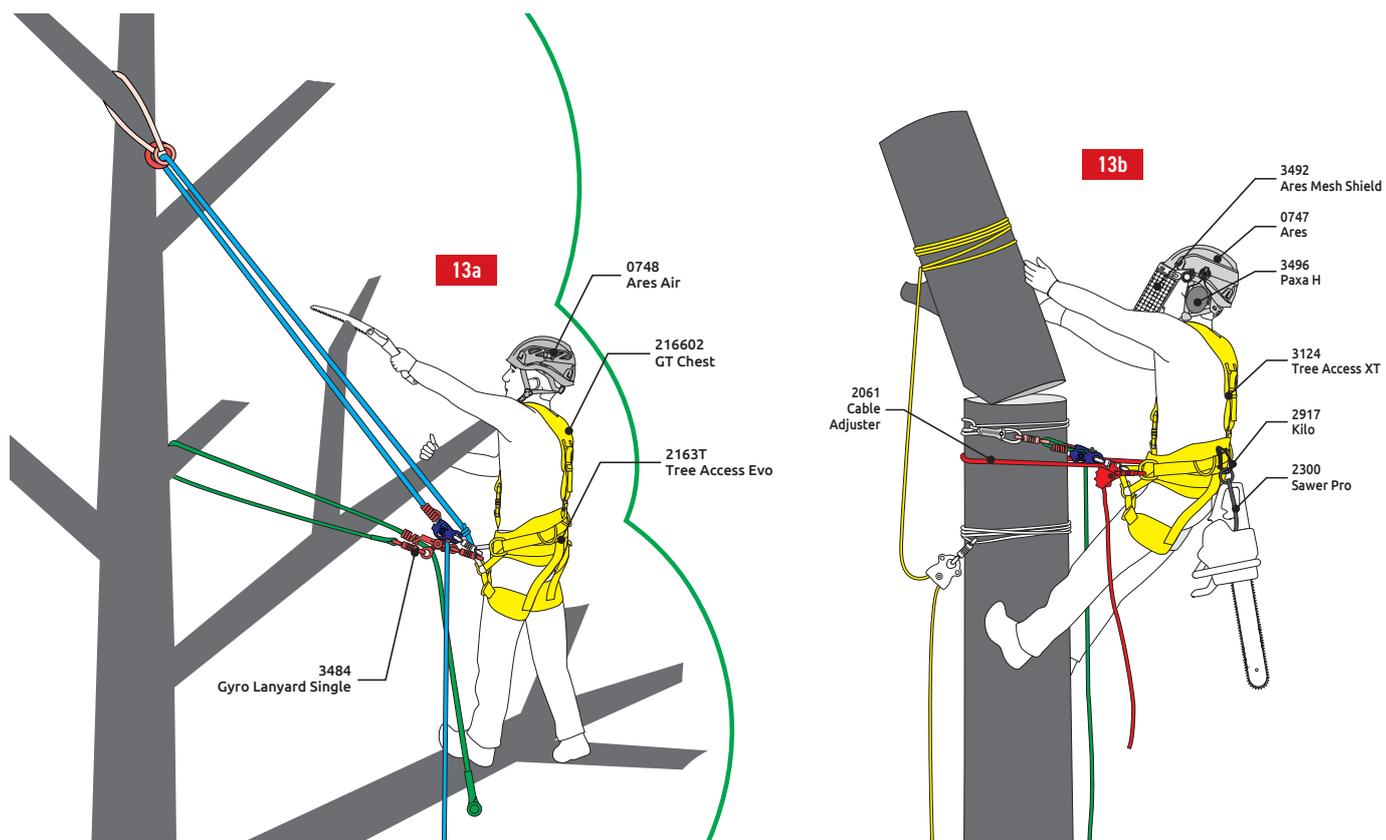
- ダブルロープテクニック DdRT / ムービングロープシステム MRS (図12a)

アンカーとオペレーターの間を常に移動するダブルロープを使用するクライミング技術。ロープの端とメインデバイスは直接オペレーターに接続されています。

- シングルロープテクニック SRT / SRS ステーションナリーロープシステム (図12b)

木の固定点または木の根元に固定されたロープを使用するクライミング技術。ロープは固定されており、オペレーターはロープに沿って移動します。





**図13 - 剪定と落下制御伐採**

剪定作業中、オペレータは2つの独立した安全システムを使用する必要があります。チェーンソーを使用する場合は、切断に対する抵抗力を高めるスチールケーブルポジショニングシステムを使用することをお勧めします (図13a)。

落下制御伐採は、ドロップゾーンまたは作業エリアに構造物、電線、またはその他の敏感な要素が存在するために従来の方法で木を地面に切り倒すことができない木の部分を除去するために使用される技術です (図13b)。

**図14 - 救助**

他の作業員を救助するには、十分な知識と、木登りの装備と技術の習熟が必要です。発生する可能性のある緊急事態に効果的に対処できるようにすることは、木登り活動に必要な知識の重要な部分です。すべての作業員は、緊急事態に備えて定期的に救助訓練を実施する必要があります。

